

【研究テーマ】

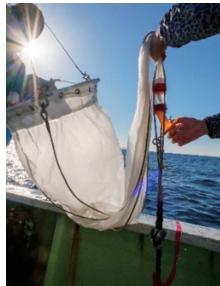
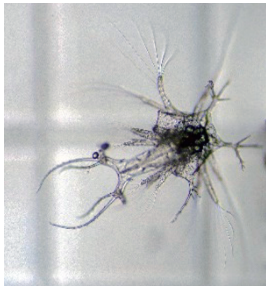
□ 駿河湾のサクラエビ不漁問題解決に向けた学際的・実証的研究

キーワード：サクラエビ、駿河湾、気候変動、マイクロプラスチック、海洋環境調査

プロジェクトの概要

- ・気候変動による海水温の変動に起因する海洋環境の変化は大きく、海洋生態系、特に植物・動物プランクトン・微生物ループ等の低次生産構造に大きな影響を与えます。
- ・2018～20年の駿河湾のサクラエビ漁は記録的な不漁により漁獲量が大幅に減少しました。そこでサクラエビ資源の回復のために科学的な調査を十分に行い、不漁の原因の解明と技術開発を含めた具体的な解決への道筋を早急に示し、持続的なサクラエビ漁を継続していける大学・漁協・行政等の協働プラットフォームの推進が必要です。サクラエビの不漁の原因とその対策の科学的な理解のために、様々な要因を総合的に議論する必要があります。
- ・サクラエビの産卵と孵化の生態を解明するため、水中ドローンを用いて、産卵が行われ幼生が生息する海域の環境の調査を実施しています。
- ・駿河湾のサクラエビ生態の科学的な調査を基に、サクラエビの卵から孵化をさせ、幼生期までの人工養殖を研究、持続的なサクラエビ漁を継続していける生産技術の確立と地域循環型のネットワークを県・市・漁協と構築することを目的としています。
- ・重大な海洋問題として注目を集めているマイクロプラスチックの調査を行い、駿河湾においてもその存在が明らかになりました。その実態と駿河湾の生物資源に対する影響の研究を行ってまいります。

ウェブサイト：<https://www.shizuoka.ac.jp/sakuraebi/>



社会連携へ向けたアピールポイント

- ・駿河湾の宝石として長く愛されてきたサクラエビの問題解決は静岡県下で早急に取り組むべき課題です。漁協関係者・行政・企業とさらに連携を行って行きたいと思えます。
- ・これまで明らかになっていなかったサクラエビの生態を明らかにし、資源回復への指針を提示するとともに、指針の実現のための水産関係(漁師・加工業者・食品業者等)の人材育成を強化し、彼らが中心で協働プラットフォームを運営していける基盤をサポートします。
- ・駿河湾のマイクロプラスチックの実態とその影響の解明・解決につながる知見の提示を目指します。

[連携実績]

- ・由比港漁業協同組合：2020年度より調査研究
- ・静岡新聞社：2019年度より特集記事「サクラエビ異変」
- ・神奈川新聞：2022年12月25日社会面 カサレト特任教授インタビュー記事掲載「相模湾にサクラエビ」
- ・「サクラエビ再生のための専門家研究会」：2019～20年度 参加
- ・サクラエビ不漁の原因解明の現状と対策のためのシンポジウム開催(後援：静岡市・由比港漁業協同組合)：2021年12月21日
- ・沼津港深海水族館：2022年よりサクラエビの培養に関して協力
- ・静岡大学附属図書館ギャラリー「駿河湾の自然と桜えび」2023年10月2日(月)～10月20日(金)
- ・日本水産学会2023年秋季大会において研究成果を発表

プロジェクトリーダー



カサレト ベアトリス

創造科学技術大学院  
サステナビリティセンター  
特任教授

プロジェクトメンバー

- ・鈴木 款 創造科学技術大学院・サステナビリティセンター 特任教授
- ・三重野 哲 創造科学技術大学院・サステナビリティセンター 客員教授
- ・鈴木 利幸 創造科学技術大学院 特任助教
- ・豊田 圭太 創造科学技術大学院 研究補佐員
- ・山口 アサニー 創造科学技術大学院 学術研究員

相談に応じられる関連分野

- ・海洋環境及び生態系の調査、セミナー等
- ・サクラエビ不漁の原因解明の調査研究
- ・サクラエビの人工養殖
- ・駿河湾のマイクロプラスチックの調査研究
- ・色素分析・栄養塩分析・有機炭素分析

